

道

～道はいい 道は大好きだ 道を歩いていこう～

アニメ「ほのぼの」のセリフです。

各学年「道徳の授業」紹介！（2学期編）

1学期末の7月号にて紹介させていただいたのと同様に、各学年2学期の授業の様子を教材内容、「振り返りシート」に書かれた生徒の言葉、そして教師のコメントを学年ごとに紹介させていただきます。

《3年生》

（内容項目「C-(12) 社会参画、公共の精神」）

題材名「自分、相手、周囲の人」



教材内容

- ・公共の交通機関などで目にするマタニティマークへのさまざまな意見を、新聞記事やアンケート統計で示している。生徒は、妊産婦の辛さは理解できるが、マタニティマークをつけている人の気持ちを想像することは難しい。安心して生活ができる社会にするために、公共での心構えを理解させ、さらによりよい社会の実現のために、積極的に行動する意欲を高めることの大切さを考えさせることのできる教材である。

（授業を受けた生徒の振り返りより）

- ・マタニティマークをつけて電車で立っている人は見たことがないけれど、小さい子と一緒に荷物をかかえている女性がいて席をゆずったら、小さい子に座らせていて、隣の人は知らない人だったので、何も言えなかったけれど、ゆずって、お母さんにも座ってほしかったです。そういうことが活発な世の中になってほしいと思いました。
- ・話を聞いていて一番思ったことは、妊婦の人を大切にし、他人でも守っていこうということです。こんなに苦勞をして自分を育ててくれたお母さんに改めて感謝したいと思いました。電車やバスなどで、ケガをしている人、妊婦さんを見つけたら、席をゆずるなどして赤ちゃんを守っていこうと思いました。
- ・私は将来、保育関係の仕事につきたいと思っているので、色々なマークのことやつわりなどのことも知っていてけど、くわしく知らない人もいることを改めて感じられて、これからは全員が理解を深めていって、誰も傷つかないような社会になるといいなと思いました。
- ・もし、電車やバス等で妊婦さんに出会ったら、席をゆずったり、気遣えるような人間になりたいと思った。世の中では、妊婦さんに対して嫌な目を向けたり、意地悪をする人がいて悲しいです。妊婦さんでも、そうでなくても、誰にでもゆずり合いの精神で協力し合える世の中になれたらいいなと思いました。

昨年度、実際に妊娠しながら生徒と共に学校生活を過ごした職員もあってか、ただの授業という枠におさまらず、自分事として真剣に考えている生徒の様子が印象的でした。また、身近な経験談にとどまらず「こういった社会になってほしい」と公共の福祉にきちんと視点が向いている生徒が多数いたことにも3年生としての成長を感じました。



（裏面に続きます）

《2年生》

（内容項目「D-（21） 感動、畏敬の念」）

題材名「樹齢七千年の杉」

・日々生活する中で、当たり前と感じてしまっている自然に対して、改めて考えを深めるきっかけとしている生徒が多かったように思います。授業を通して、自分がどのように生きたいか、日頃見ている自然が「きれい」なだけではないものに見えてくると嬉しいです。

教材内容

- ・地形的に田畑が作りにくい屋久島では、樹齢千年を超す屋久杉が小杉谷を中心に林立していたが、建築や年貢のために屋久杉伐採が始まり、その後の大量伐採で、再生不能なまでに切り尽くされてしまった。残された縄文杉などの貴重さから、世界遺産に登録して保存することになったのである。時空を超えて脈々と命を受け継いでいる縄文杉の姿から、自然の持つ美しさや偉大さを感じ、人間の力を超えたものに対する畏敬の念と豊かな心をはぐくむ教材である。

（授業を受けた生徒の振り返りより）

- ・自分も自然の素晴らしさを考えて、生きていられることに感謝したい。
- ・植物も全力を尽くしているのに、人間たちが壊して、でも自分たちも必至だから難しい。
- ・木は、人間と一緒に一生懸命生きているし、死と向き合いながら、生きている木もあることが分かった。
- ・自然とは一見どこにでもあるけど、本当は一つ一つ人みたいに違くて面白い！植物もたくましく強く生きている。
- ・いつも見ていた木などの見方が少し変わるような気がしました。自然を見て、こわい、きれい、おもしろいなど自然を通して考えることができました。
- ・自然はきれいだけど恐ろしいという意見がすごく共感しました。今は、森林破壊が進んでいるから、教科書に載っていたようなのが見れなくなると思うと悲しいから、私たちの手で守っていかないと、と考えました。
- ・最後まで自分らしくいられる自然はとてすごいと思った。最後まで強く美しく誰かの支えになれる優しさを持っているのすごくすてき。
- ・自然ってあって当たり前だと思っていました。今回の授業で分かったのは、自然は1つ1つ命があり、それを大切にすることが大事だとわかりました。

《1年生》

（内容項目「よりよい学校生活、集団生活の充実」）

題材名「むかで競走」

授業だけでなく東中学校の学校行事を通じて、集団生活の充実について考えられている様子です。よりよい学校生活に向けて、それぞれが考える理想のクラスを実現するためにリーダーが中心となって動いています。そのサポートができればと思います。

教材内容

- ・「むかで競走」という心を合わせなければできない競技への参加過程が描かれている。主人公は実行委員となり練習に気合が入るが、運動が苦手な生徒のいるチームはうまくいかない。学級の雰囲気が悪くなり、主人公も努力する気持ちが持続しなくなる中、個別に特訓する様子を目撃し、学級の目標が「全員完走」となる。学級が一致団結して競技に向かうことは、競技の勝ち負けを超えて集団の大きな喜びと感動の共有に繋がるという内容になっている。

（授業を受けた生徒の振り返りより）

- ・いい話だと思った。誰もが欠けちゃいけないんだ、と改めて実感することができた。
- ・集団生活を充実させる上で、助け合うという考えがすごく良いと思いました。自分のクラスもみんなて助け合うクラスになればいいなと思います。
- ・運動が苦手な生徒がいなかったら物語のような失敗もなかったから、失敗して学ぶことも大切なのかと思いました。
- ・集団生活をするということはすごく難しいけど、みんなで足りないことを補っていけばうまくいくということを学びました。
- ・個人で行動する派だけど、みんなで動くほうもいいところがいっぱいあって、どちらもいいと思った。